

【 第7回 女子ユース世界選手権 】

2018年8月7日～19日

開催国：ポーランド・都市：キエルツェ

試合結果報告 8月10日（金）

JAPAN	VS	RUS(ロシア)
8	前半	17
9	後半	14
	第一延長	
	第二延長	
17	合計	31

個人得点

No.	名 前	前半	後半	合 計
1	千葉 夏希			0
2	橋口 和佳奈	—	—	—
4	辻野 桃香		2	2
5	阿部 美幸	1		1
6	伊藤 愛莉	1	4	5
7	服部 沙也加		1	1
9	安田 つぐみ			0
10	岡田 彩愛	2	2	4
12	榊 真菜	—	—	—
13	抜水 うらら			0
14	平野 宗香	1		1
15	谷藤 悠	1		1
16	柿添 まどか			0
17	紅林 詩乃			0
18	江本 ひかる			0
19	宇治村 唯	2		2
20	守屋 葵			0
21	上田 遥歌			0
	合計	8	9	17

戦評

日本の第3戦目は、攻撃の真ん中4人が178cm以上というロシアと対戦。日本はその迫力に圧倒され、ミスを連発。それを速攻にもっていかれ一気に0-6と先行される。そこですかさずチームタイムアウトをとり、攻撃の修正を行った。タイムアウト後、日本は7人攻撃を仕掛け、阿部のカットイン、谷藤のサイドで点をとる。しかし、そこからロシアの178cmの長身キーパーに3本連続ノーマークシュートとられ波に乗れない。我慢の時間が続いたが、20分過ぎからDFで上田、守屋、紅林がだんだん相手のスピードとパワーに慣れてきて、ミスを誘えるようになってきた。また、GK柿添も当たりだし、宇治村の速攻で加点するが、8-17で前半を折り返す。

後半に入ってもロシアの勢いは止まらない。岡田の速攻、伊藤のミドルで応戦するが、流れは変わらない。結果17-31で敗戦した。

日本の高校生、大学生では考えられないほどの身長とフィジカルの強さを実感した。この経験をこれからどう生かすかが、この試合を経験した選手の今後の課題である。

この試合のMVPは岡田彩愛が獲得した。

報告記入者：

安藤 希沙